

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語科教育法 I		13705	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
天野 史子	選択	2	中学校・高等学校英語科教諭、小学校英語活動支援員		

授業の到達目標

小学校・中学校・高等学校における英語学習・指導の知識、授業指導、学習評価の基礎を、次に続く英語科教育法Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの授業との連携も視野に入れて身に付ける。
英語教師として学習指導を行うための基礎づくりを目指す。英語そのものに関する知識や運用能力を向上させながら、第二言語習得のプロセスや運用のメカニズムに関する基礎知識を学ぶ。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）、I（知性）、In（国際性）、E（倫理）を学ぶ。

授業の概要

授業の概要：学習指導要領における「3つの資質・能力」を踏まえた「5つの領域」の指導及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法指導についての基礎的な知識及び複数の領域を統合した指導法を、以下の「授業計画」の具体的項目に従って身につける。
教師にとってもっとも重要なのは、自分に与えられた実際の「教育の場」で最善の方策を生み出す能力であると思われるが、そのためには、実際の英語学習指導にどのようなファクターがどのように作用しているかを見極めることができればならない。それぞれの生徒に各自の持っている潜在能力を学習場面で最大限に発揮させることが教師にとっての重要課題と捉え、学生が積極的に考え、課題発表や実践をしてもらう予定である。

授業計画

- 1 英語教育の目的(1)小・中・高等学校学習指導要領の理解
- 2 英語教育の目的(2)小・中・高等学校を通じた英語教育の在り方
- 3 第2言語習得研究(1)学習者の特質:認知的要因
- 4 第2言語習得研究(2)学習者の特質:情意的要因
- 5 第2言語習得研究(3)学習者の特質:動機付け
- 6 英語教材研究(1)音声とつづり字
- 7 英語教材研究(2)語彙と表現
- 8 英語教材研究(3)文法と情報構造
- 9 英語教材研究(4)Eラーニング、ICT教育
- 10 音声言語指導 リスニング・スピーキング(やり取り・発音)の指導
- 11 音声言語指導 リスニング・スピーキングの授業展開、ティーミング

- 12 書記言語指導 リーディング・ライティングの指導
- 13 言語能力の測定と評価(1)パフォーマンス評価等評価方法と評価基準
- 14 言語能力の測定と評価(2)テストの意義と作成上の留意点
- 15 総括 英語教師の資質と能力

授業の方法

講義のほかに発表を多く取り入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点40%、発表点40%、レポート20%

欠席について

欠席・遅刻については一定の比率で減点する。

テキスト

『新・グローバル時代の英語教育 ー新学習指導要領に対応した英語科教育法』 岡秀夫 編著 成美堂

参考図書

『中学校学習指導要領解説 外国語編【最新版】』(文部科学省)
『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編【最新版】』(文部科学省)
その他、必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

授業中の意欲、積極的な学習態度を評価する。課題発表に際しては、発表者と聞く側の学生が質疑応答を通して議論を深めること。

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語科教育法Ⅱ		13709	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
宮副 紀子	選択	2	私立中学高等学校教員(科目「英語」)		

授業の到達目標

中学校・高等学校における英語学習・指導の知識、授業指導の基礎及び異文化理解を、次に続く英語科教育法Ⅲ・Ⅳの授業との連携も視野に入れて徹底する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）、I（知性）、In（国際性）、E（倫理）を学ぶ。

授業の概要

学習指導要領における「3つの資質・能力」の養成を重要な柱と位置づけ、以下（授業計画）の具体的項目に関して教育法の鳥瞰図の全体像を示し、学生の自覚・理解を促す。

授業計画

- 1 はじめに:授業の概要について
- 2 学習指導要領の理解
- 3 英語の指導目標と内容
- 4 学習者の要因
- 5 言語習得の理論と諸問題
- 6 発音の指導
- 7 文字と綴りの指導
- 8 語彙表現、文法の指導
- 9 リスニングの指導
- 10 スピーキングの指導
- 11 リーディングの指導
- 12 ライティングの指導
- 13 言語技術を統合した指導
- 14 異文化理解
- 15 総括(複数領域を統合した言語活動の指導を中心に)、および期末評価

授業の方法

講義のほかに各自の発表を多く取り入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

課題：講義のテーマによってはレポート作成を課し、講義中、あるいは個人指導においてフィードバックを行う。
評価方法：平常点20% 発表20% レポート 30% 定期試験30%
授業中の積極的な質疑応答を高く評価する。

欠席について

欠席・遅刻については一定の比率で減点する。

テキスト

土屋澄男・広野威志『最新英語科教育法入門』 研究社

参考図書

白井恭弘『外国語学習の科学—第二言語習得論とは何か』(岩波書店)
中学校学習指導要領解説 外国語編【最新版】(文部科学省)
高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編【最新版】(文部科学省)
その他、必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

課題担当者は、発表の内容のみならず、プレゼンテーションの方法も工夫すること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キッズ・イングリッシュ I	ET	13725	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
高田 悦子	選択	2	幼稚園・小学校にて30年以上、J-shimeの小学校指導者認定コースにて10年以上の指導経験あり。		

授業の到達目標

小学校外国語教育における背景知識や教材、多様な指導技術、評価などを、小学校の役割及び中・高等学校の外国語教育との連携を視野に入れて身に付ける。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）の育成を目指す。

授業の概要

小学校学習指導要領における「5つの領域」の指導及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法指導について、児童期の学習者の特性と英語授業の在り方を踏まえた知識と技術を以下の「授業計画」の具体的項目に従って身に付ける。

授業計画

- 1 小学校外国語教育の目標・内容(1)年間指導計画と小中高連携
- 2 小学校外国語教育の目標・内容(2)教材研究と学習指導案作成法
- 3 小学校外国語教育の目標・内容(3)ICTの効果的な活用法
- 4 コミュニケーション能力を育成する指導法 ティームティーチング
- 5 コミュニケーション能力を育成する指導法 発話を促す活動
- 6 小学校英語教材研究(1)音声習得中心の活動
- 7 小学校英語指導法(ワークショップ)(1)音声習得中心の活動
- 8 小学校英語教材研究(2)文字習得中心の活動
- 9 小学校英語指導法(ワークショップ)(2)文字習得中心の活動
- 10 小学校英語教材研究(3)表現形式に焦点を当てた活動
- 11 小学校英語指導法(ワークショップ)(3)表現形式に焦点を当てた活動
- 12 小学校英語教材研究(4)言語使用の場面・背景(物語)に焦点を当てた活動
- 13 小学校英語指導法(ワークショップ)(4)物語の場面・背景に焦点を当てた活動
- 14 小学校英語 模擬授業
- 15 Can-Doによる英語能力の測定とパフォーマンス評価、模擬授業の振り返り

授業の方法

テキストの解説と模擬授業を中心に行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点30%、プレゼンテーション50%、レポート20%

欠席について

3分の2以上の出席が必要。

テキスト

『小学校英語はじめる教科書 改訂版』吉田研作（監修）小川隆夫、東仁美（著） mpi松香フォニックス
適宜プリントを配布する。

参考図書

『小学校学習指導要領〈平成29年度告示〉解説 外国語活動・外国語編』文部科学省、平成30年
『Let's Try! 1』『Let's Try! 2』文部科学省
その他、必要に応じて、随時紹介する。

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キッズ・イングリッシュ II	ET	13729	II	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
天野 史子	選択	2	児童英語講師、児童英語・小学校英語指導者養成指導、小学校英語活動支援員		

授業の到達目標

キッズ・イングリッシュ I で体験した指導法を活用し、年齢・発達過程にあった指導案を作成する。学生自身が、将来、幼稚園、小・中学校、高校、英会話学校等での指導に役立つ授業創りを考え、幼稚園、小学校などで、実際に授業を体験する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）を考える。

授業の概要

春学期で体験した指導法とその意義を理解し、児童期の学習者の特性と英語授業のあり方を踏まえた音声、文字、語彙・表現、文法指導についての知識と技術を活用し、指導案作成、教材教具作成、模擬授業を行う。その上で、実際に小学校現場などでの授業体験を通じて、学生自身が将来の児童英語指導者としての実践力を身につける。

授業計画

- 1 児童の発達段階にあった英語活動を創る(1)「指導案作成のポイント」
- 2 児童の発達段階にあった英語活動を創る(2)「絵カード・教具・ワークシート作成法」
- 3 児童の発達段階にあった英語活動を創る(3)「指導案草案発表」
- 4 実習授業指導案作成(1)『教材研究』
- 5 実習授業指導案作成(2)『教具作成』
- 6 実習授業指導案作成(3)『評価の観点と振り返りカード作成』
- 7 実習授業指導案発表と模擬授業
- 8 第1回 小学校英語活動 実習授業
- 9 実習リフレクション
- 10 実習授業指導案作成(4)『教材研究・指導案発表』
- 11 実習授業指導案作成(5)『教具作成』
- 12 実習授業指導案作成(6)『評価の観点と振り返りカード作成』
- 13 実習授業指導案発表と模擬授業
- 14 第2回 小学校英語活動 実習体験
- 15 まとめ 授業評価、ポートフォリオ作成
- 16

授業の方法

指導案作成、教材・ワークシート作成、模擬授業をした上で、小学校英語活動の指導・支援を実際に現場で体験する。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、レポート30%

欠席について

参加・発表型授業であり、小学校英語活動実習を行うので必ず出席すること

テキスト

授業時にハンドアウト、及び、教材配布

参考図書

『小学校英語教育の進め方』岡秀夫、金森強 成美堂
『小学校英語の教育法 理論と実践』アレン玉井光江 大修館書店
『小学校英語 はじめる教科書』小川隆夫・東仁美 mpi

留意事項

子どもに英語を教える授業を、自らが積極的に創る。
実習に出かけるときは、指導者としてふさわしい服装・態度で臨むこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キッズ・イングリッシュⅡ	PC	17469	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
天野 史子	選択	2	児童英語講師、児童英語・小学校英語指導者養成指導、小学校英語活動支援員		

授業の到達目標

キッズ・イングリッシュⅠで体験した指導法を活用し、年齢・発達過程にあった指導案を作成する。学生自身が、将来、幼稚園、小・中学校、高校、英会話学校等での指導に役立つ授業創りを考え、幼稚園、小学校などで、実際に授業を体験する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）を考える。

授業の概要

春学期で体験した指導法とその意義を理解し、児童期の学習者の特性と英語授業のあり方を踏まえた音声、文字、語彙・表現、文法指導についての知識と技術を活用し、指導案作成、教材教具作成、模擬授業を行う。その上で、実際に小学校現場などでの授業体験を通じて、学生自身が将来の児童英語指導者としての実践力を身につける。

授業計画

- 1 児童の発達段階にあった英語活動を創る(1) [指導案作成のポイント]
- 2 児童の発達段階にあった英語活動を創る(2) [絵カード・教具・ワークシート作成法]
- 3 児童の発達段階にあった英語活動を創る(3) [指導案草案発表]
- 4 実習授業指導案作成(1)『教材研究』
- 5 実習授業指導案作成(2)『教具作成』
- 6 実習授業指導案作成(3)『評価の観点と振り返りカード作成』
- 7 実習授業指導案発表と模擬授業
- 8 第1回 小学校英語活動 実習授業
- 9 実習リフレクション
- 10 実習授業指導案作成(4)『教材研究・指導案発表』
- 11 実習授業指導案作成(5)『教具作成』
- 12 実習授業指導案作成(6)『評価の観点と振り返りカード作成』
- 13 実習授業指導案発表と模擬授業
- 14 第2回小学校英語活動 実習体験
- 15 まとめ 授業評価、ポートフォリオ作成
- 16

授業の方法

指導案作成、教材・ワークシート作成、模擬授業をした上で、小学校英語活動の指導・支援を実際に現場で体験する。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、レポート30%

欠席について

参加・発表型授業であり、小学校英語活動実習を行うので必ず出席すること

テキスト

授業時にハンドアウト、及び、教材配布

参考図書

『小学校英語教育の進め方』岡秀夫、金森強 成美堂
 『小学校英語の教育法 理論と実践』アレン玉井光江 大修館書店
 『小学校英語 はじめる教科書』小川隆夫・東仁美 mpi

留意事項

子どもに英語を教える授業を、自らが積極的に創る。実習に出かけるときは、指導者としてふさわしい服装・態度で臨むこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等音楽4		17477	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
南 夏世	選択	2			

授業の到達目標

豊かな感性と表現を育てることができる指導者を目指すために、領域「表現」についてのねらい・内容を理解し、子どもの発達や現代の環境等を踏まえた幅広い表現活動が展開できるよう教材を研究し、実践する方法を修得する。この授業ではKAISEIパーソナリティのI（知性）とA（自律）とS（奉仕）を身につける。

授業の概要

領域「表現」の目標・内容を学び、子どもの成長に合わせた活動内容や指導法を修得する。まず合奏の演習を通して、手拍子・リズム奏・リズム遊び等からリズムについての理解を深め、合わせて合奏譜を各自で作成することにより、楽典・読譜の基礎を固める。そして、日々の活動に必要な弾き歌いの演習を通して、実習に向けて模擬授業の実践を行う。さらに、実習や表現活動に必要なピアノ演習やグループのテーマによる活動の練習から、総括として現場で実践するための指導力を身につけていく。

授業計画

- 1 領域「表現」の概説。子どもの成長と音楽の関わりについて。
- 2 わらべうたと子どもの歌など歌唱教材研究と演習。
- 3 季節の歌など歌唱教材研究と演習。
- 4 季節の歌など歌唱教材研究と演習。
- 5 打楽器の奏法とリズム合奏。
- 6 合奏演奏と編曲法。
- 7 合奏演奏と編曲法。楽譜の書き方。
- 8 合奏演奏と編曲法。楽譜の書き方。
- 9 表現活動のためのピアノ個人レッスン。楽典。
- 10 指導の実践。
- 11 指導の実践。
- 12 表現活動のためのピアノ個人レッスン。楽典。
- 13 さまざまな表現活動とそのまとめ。
- 14 グループが定めたテーマによる表現活動の総合演習。
- 15 グループが定めたテーマによる表現活動の総合演習。
- 16

授業の方法

実技が中心である。個人であるいはグループで発表や実演を行う。

準備学修

Webを参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①項目ごとにテスト、発表を実施し、フィールドバックを行う。
- ②平常点70%、定期試験30% レポート提出も求める。

欠席について

授業毎の発表や演習が評価対象になるので、できるだけ欠席しないこと。

テキスト

『弾こう♪歌おう♪子どもとともに』(YAMAHA MUSIC MEDIA)
 『リズム曲集』(サーベル社)

参考図書

授業時に指示する。

留意事項

初回に配る個人カードに毎回の学習や演習を必ず記録し、定期試験の際に提出すること。
 音楽に合わせた身体表現発表が適宜あるので、動きやすい服装で受講すること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。